

# 私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

## 「DV」踏み込んだ記事を

1月21日付の本紙夕刊景があるように思う。DV刊に掲載される「読み聞か  
は、「被害が過去最多」のやストーリーカーに関する記事にこれ、後藤惣一先生  
見出しを掲げ、県警が20は、被害者に意識の変化をのオススメ本」の連載だ。  
15年に対応したストーリーカもたらずためにも、とても2007年春に夕刊でスタ  
ー、ドメスティックバイオ重要だ。  
レンス(DV)の件数(速ただ、DVの被害者の中の家庭面に移った。通算1  
報値)を報じた。ストーリーカーには、加害者と別居や離婚00回を超えている。  
1は481件(14年比11をしても、その後も加害者読み聞かせの時間は、仕  
8件増)、DVは939件に暴力を振るわれるのでは事や家事で疲れているお父  
(同173件増)で、増加ないかという不安や、金銭さん、お母さんにとっても  
傾向が続いているという。面の問題などで「避難」を子どもと触れ合える大切な  
DV案件を多く扱う弁護士ちゅうちよする方も多い。ひとときだ。絵本の表紙写



(きよもと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。九州弁護士会連合会・犯罪被害者の支援に関する連絡協議会委員。現在子育て真っ最中。

士として、相談件数が年々本紙には、もう一步踏み込  
増加していることは実感し、み、避難後の生活原資を確  
ている。これは単純に発生保する方法や、加害者の接  
件数が増えているというだ近を防ぐ方法など、法的に  
けではない。かつて、家庭取り得る手段も紹介してほ  
内の問題、単なる夫婦げんしい。知識を得ることが被  
かとして処理されていたD害者のより迅速な避難につ  
Vが時代の変化に伴い、我がらと思われからだ。  
慢しなくてよいもの、相談新年から少し重たい記事  
してよいもの、犯罪に当に触れたが、本紙には親子  
るものといった認識が社にうれしい、ほっこりした  
会に広まってきたという背記事もある。毎月1回、朝も期待したい。

真と、その内容を優しく紹介してくれるこの連載は、読み聞かせの題材選びに最適。連載を楽しみにしている保護者は多いだろう。ただ、絵本の表紙を掲載するのではあれば、カラーで見たいと思う。色彩情報が増えることで絵本の持ち味が一層伝わるし、子どもと一緒に読みたい本を探しやすくなるだろう。

DVの記事も絵本の連載も、女性や子どもを取り巻くもの。本紙には、子どもや女性といった社会的弱者に優しい記事や連載を今後